





ICTの活用

ICT機器は、ねらいを達成するための教具の一つです。授業のどの場面で活用するか、板書やノート指導、発表方法などに関連させて効果的に活用しましょう

<p>1 興味・関心を高める</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●注目させたいポイントに書き込み機能を使って印をつける。 ●学習の導入時に関連するビデオや写真を見せ、興味関心を深める。 ●実技教科など、動きを伴う指導の場面で、繰り返し視聴させたり、一時停止して拡大したりして見せる。
<p>2 分かりやすく伝える</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●デジタルコンテンツなどを活用し、実際に見えにくい現象などを提示する。 ●児童生徒の書き込んだノートを書画カメラで提示し、活用する。 ●参考資料を提示し、板書にまとめを書くなど、適切に使い分ける。 ●学習内容を理解する補助として、挿絵や写真、動画を映し出す。 ●デジタル教科書を活用し、拡大提示資料として、本時のねらいや活動内容、参考資料等を分かりやすく伝える。
<p>3 明確に伝える</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●動きを伴う実技教科などをビデオやタブレット等で記録し、模範になる動きと比較しながら改善点や工夫点について気づかせる。 ●注目させたいポイントに書き込み機能を使って明示する。
<p>4 児童生徒に考えさせる</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●児童生徒が考えた内容を複数提示し、比較して見させる。 ●数学（算数）で図形を動かして見せ、課題解決の見通しを持たせる。 ●提示資料から、違いや共通点を見つけ、その理由を考えさせる。
<p>5 実演でやり方を示す</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●毛筆書写の実演を見せ、穂先の動きや文字の形を整えて書くことを意識させる。 ●調理実習での刃物の使い方や、美術・技術（図画工作）での細かい動きに注目させ模範提示を行う。 ●方眼グラフや分度器、定規等を拡大表示し、活用する。
<p>6 児童生徒が発表する</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●児童生徒の考え方を比べながら討論させるために、ノートをタブレットで撮影し、比較提示する。 ●児童生徒の考えたことや伝えたいことを拡大表示する。 ●数学（算数）で実際に立体の特徴を捉えるなど、問題把握や比較検討の場面でデジタル教材を活用する。 ●話す内容に合わせて映像を指し示しながら話し、線で囲んだり矢印を引きながら伝える。
<p>7 授業内容を振り返る</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●着目させたい言葉に線を引くことで視覚的に捉えさせる。 ●学習内容を保存し、めあてに即した振り返りから次時につなげる。 ●動きを伴う実技教科の授業で、タブレット等で自分の動きを記録し課題を意識させながら振り返る。 ●理科などで、実験や実習の過程や結果を記録し、振り返る。
<p>8 知識・スキルの定着</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●漢字や計算、単語などの学習事項にテンポよく、多く触れさせる。 ●隠された単語を補いながら音読させ、知識を定着させる。 ●細かな動きのある内容を大きく映し出し、スキルを習得させる。 ●語学における反復的な発声練習に活用する。

